

令和3年度第4回堺市依存症対策推進懇話会 書面聴取者意見一覧

委員名	箇所	意見・感想等
小野委員	懇話会の案件以外に関するご意見	4月の診療報酬改定にて、ヤングケアラーへの支援が盛り込まれました。女性の依存症の方には、シングルマザーも多く必然的にヤングケアラーの存在が問題となりやすくなります。児童分野との連携強化も必要となります。次年度の課題としていただければ幸いです。
高野委員	計画案に基づく具体的な取り組み等に関するご意見	・取組1 依存症の予防に関する取組 啓発、予防教育については、学校教育現場での取組が特に重要と考えます。調査結果からも明白ですが、多くの方が10代から飲酒や薬物の使用を開始している現状が伺えます。実際、受診されるアルコール依存症の方の大半は10代から飲酒をされています。現在の学生さん達の予防になるのは勿論のこと、この学生さん達はいずれ家庭を持ち、子供を育てる親になることを考えると、将来的にはその子供さんたちの予防にも影響し、効果大と考えられます。
高野委員	計画案に基づく具体的な取り組み等に関するご意見	・取組2 早期発見・早期治療に関する取組 アルコール専門医療機関を受診するずっと以前から、患者さんの多くは、アルコール関連身体疾患、すなわち肝障害、膵炎、糖尿病などの内科受診の既往があったり、転倒による外傷や骨折で救急病院受診の既往が見られます。早期発見、早期治療という観点からは、内科医や救急医等との連携を強化していく必要があります。
高野委員	計画案に基づく具体的な取り組み等に関するご意見	・取組3 治療および回復に関する取組 コロナ禍の時代を迎えて見えてきた内容ですが、コロナ禍からくる様々なストレスからただでさえ飲酒問題が出現しやすい状況の中で、コロナ対策で自助団体の一時休会という惨状は厳しいものがあります。今回の経験を通じて、このような緊急事態においても持続可能な自助団体への支援を考えておく必要があります。
高野委員	計画案に基づく具体的な取り組み等に関するご意見	・取組4 いきいきと安心して暮らすことができるための取組 アルコール依存症発症、進行、治療、回復の経過で年月が経ち、一旦、仕事を失くすと、断酒ができるようになった時にはひと年とって、本人は仕事をしたいと就職活動をするも、まず年齢ではじかれ、仕事はなく就労できないという現状があります。回復して、いきいきと生活していくには就労支援も大きな課題です。
高野委員	計画案に基づく具体的な取り組み等に関するご意見	・取組5 自殺予防に関する取組 年に何度か警察から、「单身の方ですが、診察券から以前にそちらの病院にかかっていた方だと思われそうですが、家でお亡くなりになっておられました。病名や経過など教えてくださいか？」という連絡が入ります。他の専門医療機関も含めるとこのような経過の方が相当数いるものと推察されます。現在の医療の力不足でもあります。アルコール依存症の方が飲酒を続けることは、慢性の自殺行為であると言われてます。家族が同居していれば、危機的な状況が近づけば、救急隊に連絡するなど対応されますが、単身者は具合が悪くなり、自分ではどうしようもできなくなり致命的になります。このような方々の経過を見守り、いざという時に対応できる体制を構築しておくことも、「慢性の自殺行為」という言葉からは自殺予防の範疇に含まれると考えます。